

< 瑞江中学校としてのまとめ >

1. 学力向上を図るための調査のとらえ方

この調査は、平成20年2月、現在の3年生を対象にした調査である。平均正答率について一喜一憂したり、他校と比較したりすることが真の目的ではない。

本校の生徒の学力向上を図るために、調査報告書の分析と考察を行い、わかりやすい授業の確立と、基礎・基本を身につけることのできる授業の実践に役立てることが特に重要である。

2. 学力向上を図るための調査の結果について

本調査における瑞江中学校の生徒の総合結果は、東京都及び江戸川区の平均正答率を下回る結果となっている（問題解決能力等の欄を参照）。この結果については、真摯に受け止めるとともに、全職員による分析と考察を行った。

この調査の結果を見ると、「見通す力」の正答率が都の平均より0.6%高く、江戸川区の平均より3.5%高い。しかしながら、他の観点の正答率は都の平均を下回り、基礎的・基本的な学力がまだ定着していないこと、また、文章や図表を見て解答を導き出す応用力が不足していることを示している。何が問われているかを正確に読み取る国語力の底上げを図る必要がある。また、学習意欲が乏しい生徒がいるという課題も解消されておらず、意識を高めて家庭学習の習慣を確立させることが大きな課題と考える。

3. 学力向上を図るための取り組みについて

本校では基礎学力向上を図るために次のような取り組みを行っている。

「授業時間の確保」...授業時数の確保に努め、生徒の学習時間を保証している。

「学力向上プラン」の推進...総合的な学習の時間も含め、各教科の学力向上を目指す。

重点目標は、基礎・基本の定着、自己学習力の向上の2本柱である。

「朝の読書活動」の実施...毎朝、全校一斉に朝の読書活動を行い、人間形成の推進と学力の向上を図る。

「国語・数学・英語」の習熟度別少人数授業の実施...1つの学級を2つまたは2つの学級を3つの習熟度別少人数クラスに分け、教師の目の行き届いた個に応じたわかりやすい授業を行う。

「総合的な学習の時間」の充実...自ら調べる力、まとめる力、発表する力を鍛える。

「多様なコースの選択教科」...3年は16コースから4つ選択できる。

「夏休み等の学力補充」...夏休みの補充教室やサタデープロジェクトに希望する生徒が登校し、教科指導を受ける。

「英検」・「漢検」・「数検」を校内で実施...多くの生徒が受検できるように配慮する。

以上のような取り組みだけでなく、学校行事、生徒会活動、部活動なども含めた全教育活動を通し、生徒の学習意欲を喚起しつつ、総合的な問題解決学習などの総合的な学力の向上を図ることを目指している。

【問題解決能力等】

内容ごとの正答率（％）				観点別の正答率（％）			
内容	東京都	江戸川区	瑞江中	評価の観点	東京都	江戸川区	瑞江中
1．適応・応用する力	52.2	52.6	51.5	問題を発見する力	81.9	79.3	80.8
2．適応・応用する力	59.2	53.9	47.5	見通す力	16.6	13.7	17.2
3．適応・応用する力	56.9	54.5	48.5	適応・応用する力	53.3	49.6	45.5
4．適応・応用する力	47.7	43.6	35.4	意思決定する力	79.2	76.7	75.8
5．意思決定する力	79.2	76.7	75.8	表現する力	62.0	58.0	53.5
6．適応・応用する力	50.6	43.4	44.4	観点の趣旨			
7．問題を発見する力	81.9	79.3	80.8	<p><問題を発見する力> 与えられた情報を分析・考察して、その状況において解決が必要となる問題を見つけることができる。</p> <p><見通す力> 与えられた情報を分析・考察して、問題を解決するための方策や結果予想を考えることができる。</p> <p><適応・応用する力> 既に持っている知識・技能等を活用するとともに、新たな分析や判断も加えて問題を解決することができる。</p> <p><意思決定する力> 複数の条件を理解し、その条件に適切に対応して判断し、問題を解決することができる。</p> <p><表現する力> 問題の結論やその根拠を明確に表現したり、問題の解決方法（道筋）を適切に表現したりすることができる。</p>			
8．表現する力	62.0	58.0	53.5				
9．見通す力	16.6	13.7	17.2				
平均	56.3	52.8	50.5				
指導改善のポイント							
<p>本校の生徒は、「見通す力」「問題を発見する力」の正答率は東京都・江戸川区に比べると比較的高かった。これは、総合的な学習の時間や各教科の授業で、「今すべき事、これからやらなければいけない事」を意識して取り組んできた成果と考えられる。その反面、「適応・応用する力」の正答率は低い。2番の国語の問題では、情報が不十分であるということは正しく判断できるものの、必要事項を判断して明確に表現する力が不足している。4番の社会の問題では、地図の基本的な理解が不十分であった。したがって、指導改善のポイントとしては、国語においては、情報の中心となる事柄を正確に理解する習慣を確立させ、適切な表現かどうか確かめたり工夫したりできるようにすること、社会においては、地図を読み取る練習や、都道府県の位置や周囲との位置関係、その名称を確実に身につけさせるために繰り返し確認することが必要であると考えられる。</p>							